

ふれあい

NO.287
2020 January



財団法人日本医療機能評価機構認定病院
DPC 特定病院群
地域医療支援病院
地域がん診療連携拠点病院
臨床研修指定病院



盛岡市 S 君の作品

【もくじ】

求められる医療機能を見据えて

1番カテ室：血管撮影装置の新規更新にあたって思うこと
災害医療部長 中村 明浩
緩和ケアチームのご紹介
緩和ケアチーム専従看護師・乳がん看護認定看護師 古澤 裕子

緩和ケア科長 鈴木 温

薬剤師 高橋 典哉

主任管理栄養士 斎藤 香菜

院長 宮田 剛

… … 2

【行動指針】

… … 3

1. 良質な医療の提供

… … 4、5

2. 優れた医療人の育成

… … 4、5

3. 地域医療機関への診療支援

… … 4、5

4. 救急医療の充実

… … 6

5. 災害医療の体制整備

… … 7

6. 臨床研修体制の充実

… … 8

7. 健全で効率的な病院経営

「台風による浸水被害の救援のため宮城県角田市に行ってきました」

総合診療科長 斎藤 雅彦

… … 6

健康講座のご紹介

業務企画室 日當 光紀

… … 7

クリスマスコンサート

総務課総務係 八巻 紘輝

… … 8

編集後記

広報委員長（小児外科長） 島岡 理

… … 8

基本理念

高度急性期医療を推進する県民に信頼される親切であたたかい病院

求められる医療機能を見据えて

院長 宮田 剛

あけましておめでとうございます。

日ごろより岩手県立中央病院の運営にご協力いただき、厚く御礼申し上げます。2020年オリンピック・パラリンピックイヤーの幕開けとなりました。昨年のラグビーワールドカップに続き、観る者に熱い気持ちとやる気、生きる意欲も奮い立たせる年になるのではないかと期待しております。

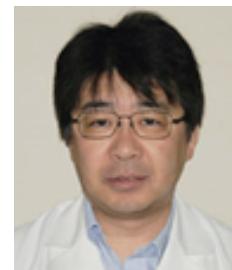
昨年は、岩手医科大学附属病院の矢巾移転事業がありました。盛岡地区の医療機関が一丸となって協力し、大きな問題もなく遂行されましたことは、岩手医大ご担当関係各位のご尽力に敬意を表しつつ、当院としても胸をなでおろしている次第です。ところで、やはり市内中心部から大きな医大病院が移転したことでの、患者さんの受療動向に変化が出てきているようです。当院としては、その時々の求められるニーズにアンテナを張り、期待に応えられるような体制を取っていくつもりです。特にこの地においては、当院のようにエネルギーに満ちた初期研修医や専攻医が多く在籍する病院の役目として、夜間休日の、特に二次救急医療における果たすべき役割がありま

す。また、がん、心臓、脳などの疾患に対し、高度技能を持った熟練医師と高度医療設備をもって高品質医療を提供することも我々の責務と考えております。これらの中央病院に求められている医療の機能をさらに発揮していくためには、医療圏全体がひとつの病院のように一体となった連携体制のもと、医療機関それぞれが特徴のあるそれぞれの機能を十分に果たしていくことができるよう役割分担を構築していく必要があると思っています。

求められるニーズに見合った医療の提供で、今後も患者さんだけでなく、関係医療機関からも「ありがとう」と言っていただけるような病院であり続けたいと思っています。

今年もどうぞよろしくお願ひいたします。

1番カテ室：血管撮影装置の 新規更新にあたって思うこと



災害医療部長、循環器内科
中村 明浩

令和元年11月19日、1番カテ室の更新工事が無事終了し心臓カテーテル検査・治療が再開されました。このカテ室は循環器内科にとってはいわば、聖地であることから今回のリニューアルはとても感慨深いものでした。当院が上ノ橋からここ上田の地に移転したのは昭和62年3月で心臓カテーテル室も新たに導入されました。岩手県中循環期内科の黎明期、それは田巻健治先生（元統括副院長）、石川健先生らによってこの1番カテ室導入とともににあるといつても過言ではありません。その後、野崎英二先生（前統括副院長）も加わりカテーテル治療が始まりました。現在はPCI（カテーテルインターベンション）と呼ばれていますが、当時はステントではなくバルーンで拡張するのみでPTCA（バルーン拡張術）と呼ばれていた時代です。私は医師3年目で今で言う後期レジデントで週2回、午前4件の診断カテーテル検査を担当しました。初代機種はシーメンス製バイプレーンのシネフィルム装置で、症例検討会が映画の試写会のように毎晩行われました。急性心筋梗塞の治療は現在のようなバルーン拡張・ステント留置術ではなく、PTCRといって冠動脈内にウロキナーゼを直接注入する方法が主流で、ポケベルで連絡をうけすぐに1番カテ室に直行したのを今でも覚えています。そのほかこのカテ室では田巻、野崎両先生が中心となり、PTMC（経皮的径静脈的僧帽弁交連切開術）、PTAV（経皮的大動脈弁バルーン形成術）、PTSMA（経皮的中隔心筋焼灼術）なども盛んに行われ、まさに東北地方の循環器治療を牽引する場となりました。平成6年からは全国からトップリーダーの先生方が参加し東北初のライブデモンストレーションが開催され、現在も継続されています。平成20年に28番カテ室の新規運用が開始されカテ室は2室体制となり、平成21年には血管撮影装置はフラットパネル方式のフィリップス製（2代目）に更新されました。昨今のカテーテル治療は冠動脈形成術のみならず、末梢血管、不整脈へとその治療域が拡大し、当院における患者数も増加しています。これまでの血管撮影装置がシングルプレーンであったことから治療がスムースに進行しないことが多々ありましたが、今回バイプレーンの装置が導入されたことでこれまで以上に柔軟かつ迅速に検査・治療が行えるようになりました。スタッフ一同、感謝申し上げます。今後、新たな歴史をつくって行きたいと思います。

